

2015年度多摩ジェンダー教育ネットワーク 第21回-24回会合 加藤恵津子

「多摩ジェンダー教育ネットワーク」について

「多摩ジェンダー教育ネットワーク」（以下「ネットワーク」）は、2009年11月に発足した、多摩地区の大学でジェンダー教育に携わる人々の「人間関係」です。

ジェンダー関連科目はあっても、ジェンダー教育がプログラムや専攻として制度化しにくい日本の諸大学にあって、その教育に携わる人々は孤立しがちです。当ネットワークはそのような人々をつなぎ、経験、スキル、そして直面している問題点を分かち合うことで互いをエンパワーすべく始めました。

これには「顔の見える」関係づくりが重要と考え、まずは行き来のしやすい多摩地区の大学教員を中心メンバーとしています。主な参加者は、多摩地区に職場またはご自宅のある方々ですが、中には「越境」参加者もおられます。また大学院生、NPO等の活動家、自治体職員（2013年度より多摩市男女共同参画担当の方々も参加）、出版社の方など、ジェンダー・セクシュアリティ教育・研究に関心のある様々な方にもご参加いただいています。

会合は3～4か月に一回、平日の夜19～21時、多摩地区の諸大学およびTAMA女性センター（京王線 聖蹟桜ヶ丘駅前）で、持ち回りで開催しています。メンバーによる教育・研究実践の報告の他、特定のテーマに基づき、外部講師をお招きしてのレクチャー形式の会合も開催しています。

参加をご希望の方、また参加を勧めたいお知り合いのいらっしゃる方は、お気軽に以下の代表アドレスまでご連絡下さい。

メールアドレス：tama.gender.education@gmail.com

世話人（2015年度現在）：

石川照子（大妻女子大学比較文化学部）

加藤恵津子（国際基督教大学ジェンダー研究センター）

稲本万里子（恵泉女学園大学）

事務担当：松崎実穂（国際基督教大学ジェンダー研究センター 研究所助手 / 準研究員）

報告

〈第21回会合〉

日 時：2015年3月4日（水）

テーマ：「軍隊と性暴力の密接な関係を考察する：日本軍『慰安所』と占領軍『慰安所』と」

発表者：平井和子（一橋大学社会学研究科特任講師）

場 所：一橋大学

出席者：14名

VAWWRAC（「戦争と女性への暴力」リサーチ・アクションセンター）による日韓「慰安婦」アンケート調査（2013）と、ご自身の入門ゼミ「日本軍『慰安婦』問題を多方面から考察する」（2014）についてご発表いただきました。前者では、日韓での認識の違いや温度差が浮き彫りになり、後者では、1、2年生の男女8人が、独創的な視点から真摯に研究を深めるプロセス、またその内容のレベルの高さが大きな印象を残し、活発な議論が行われました。

〈第22回会合〉

日 時：2015年7月15日（木）

テーマ：『源氏物語絵巻』をジェンダーとセクシュアリティの視点から分析する」

発表者：稲本万里子（恵泉女学園大学）

場 所：TAMA女性センター

出席者：9名

本年度の年間テーマである「表象のジェンダー研究」に沿って、ご専門の美術史の中の『源氏物語絵巻』を、ジェンダーとセクシュアリティの視点から考察したご発表をいただきました。Visual images（視覚表象）が、観者の人生観、すなわち恋愛観や結婚観をいかに規定し、また今でも規定し続けているかということについて、題材である『源氏物語絵巻』を詳細に分析された内容は、参加者の大きな関心を引き出し、活発な議論が行われました。

〈第23回会合〉

日 時：2015年10月8日（木）

テーマ：「今どきのヒーロー・ヒロインは？：アニメ・マンガ・映画にみる
ジェンダー」

発表者：駒谷真美（昭和女子大学大学院准教授）

場 所：成蹊大学

出席者：8名

子どもが人生初期に出会うアニメキャラは、「ヒーローもの」「ヒロインもの（魔法もの）」など、多くが深くジェンダー化されている。時代とともに「闘う」ようになって、少女キャラの設定は依然としてプリンセスやアイドルなど「女の子らしさ」の刷り込みに加担している。またTV世代からSNS世代へと移るにつれ、メディアが作る「現実」の子どもへの刷り込まれ易さは増すと考えられる…。一見「楽しい」トピックでありながら、こうした危険性が説得的に伝わり、参加者一同「来し方行く末」を省みつつ、熱く質疑応答や議論を行いました。

〈第24回会合〉

*** TAMA女性センター公開講座を兼ねる。**

日 時：2015年1月28日（木）

テーマ：「若者のあいだで今、HIV感染が増えています！：行政・CBO・学生・
研究機関の連携の可能性を探る」

発表者：野口雅美（東京都多摩府中保健所 保健対策課 感染症対策係）、
岩橋恒太（名古屋市立大学研究員、akta研究部門長）、
鈴木菜月（ICU学部生）、
加藤悠二（ICUジェンダー研究センター嘱託職員 CGS事務局担当）

場 所：TAMA女性センター

出席者：9名（一般市民を含む）

多摩府中保健所、特定非営利活動法人akta、ICUジェンダー研究センターは、2014年度より、若者のためのHIV・エイズ予防啓発資材とプログラムを協同開発し、中学・高校に啓発リーフレットを配布してきました。それぞれの

代表者が、HIV / AIDSをめぐる首都圏の現状、啓発活動にあたって参考にした若者の声などを紹介しながら、行政、CBO（Community Based Organization）、教育機関が協働して若者のセクシュアルヘルス・プロモーションにあたる重要性を、明快、具体的に論じました。多くのカラフルな配布物も配られ、若者の心をつかむヒントも豊富に紹介されました。

**From 21st to 24th Meetings of the Tama Gender Education Network
2015
(Summary)
Etsuko KATO**

The Tama Gender Education Network (hereafter, “Network”) is an association of lecturers who teach gender-related courses at universities in the Tama district. Due to the Japanese academic environment which marginalizes gender and sexuality studies, the lecturers tend to be isolated from each other. The Network, launched in November 2009, aims at mutual empowerment of its members through sharing experiences, teaching skills, and hardships. Having started within the Tama district to enhance face-to-face communication, the Network now welcomes members from outside the district or academia, including activists, publishers or local government staff.

In the academic year 2015 the Network organized four meetings, whose topics varied from “comfort women” issues to visual images in the illustrated scroll of *The Tale of Genji* or in anime. The final meeting, co-hosted by Tama municipal government, dealt with sexual health promotion for youth.

For inquiries, please feel free to contact the Network:

E-mail: tama.gender.education@gmail.com

Organizers (as of 2015):

Teruko Ishikawa

(Faculty of Comparative Culture, Otsuma Women’s University)

Etsuko Kato (Center for Genders Studies, ICU)

Inamoto Mariko (Keisen University)

Clerical Staff:

Miho Matsuzaki

(Research Institute Assistant, Center for Gender Studies, ICU)